

# 常に鋭く 岩をも削る頑丈さ

## 伊豆の自然誌 海の生き物 6

### ウニの歯

「ウニ」と聞いて、まず初めに何が頭に浮かんできますか？ おすしの軍艦巻でしょうか？ または箱板にきれいに並べられた黄色いものでしょうか？ そして海の底にいるトゲトゲしたクリのイガのような生き物のイメージも同時に浮かんでくるのではないのでしょうか？ 今回は、皆さんが普段から接している伊豆半島の海に生息する、このトゲトゲしたウニの、普段は目にしない「歯」に関して紹介します。

ウニは棘皮動物というグループに属します。外見上は全く異なって見えますが、ヒトデやナマコと同じ仲間です。伊豆半島の海岸沿いで、磯遊び中に目にする典型的なウニの形をした仲間には、バフンウニ、ムラサキウニ、アカウニ、ガンガゼ、コシダカウニなどがあげられます。どの種類も目にする側に肛門が位置し、反対側の岩などに張り付き普段は目にするのではない側に口があります。



硬い歯があるハリサンショウウニの口

この口には5枚の硬い歯が放射状に並び、周囲の筋肉との働きにより、食べ物を削り取ります。この歯や筋肉を含めた周辺の構造は「アリストテレスの提灯」と呼ばれ、有名な哲学者であるアリストテレスが記録し命名したといわれています。

海の中をのぞくと、ガンガゼなどが自分と同じサイズの岩の穴に、すっぽりと体を納めている姿がよく見られます。これはウニが自分の歯を用いて岩を削り、そこに身を潜めているのです。柔らかい海藻を食べているイメージがありますが、実はウニの歯は岩を削るほど硬いのです。

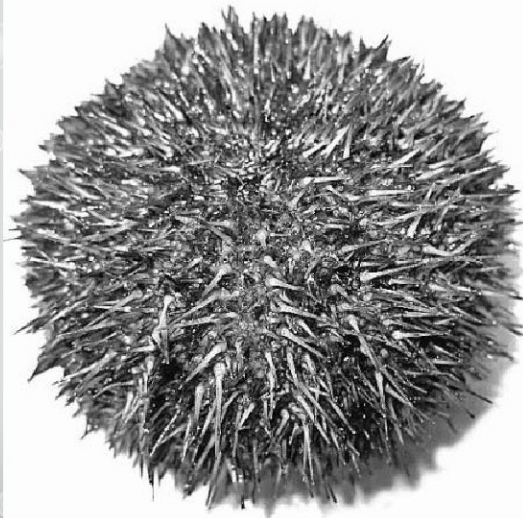
実際に、ウニはこの歯を使い何でも良く食べ、かな

の隙間や穴には、多くの動物の死骸も流れ着き、滞留することが予想されるので、そのような動物食の性質を持ち合わせているのも当然かもしれません。

この歯はずっと伸び続け、先端がもろくなるとある決まった位置ではがれ落ち、縁をシヤープに維持できる仕組みを持っています。個体として生存する限り、

りの雑食性であることが飼育下では分かっています。イカや魚やソーセイジなどを与えたと皆で群がり、おいしそうに食べている姿が見られます。魚などは骨ごとバリバリと食べてしまします。ウニがすんでいる岩

ウニは常に切れ味の鋭い、岩をも削る頑丈な歯を持ち続けることができるわけです。われわれ人間にとってはなんともつらやましい話です。(筑波大学下田臨海実験センター 谷口俊介准教授)



磯などで見掛けるバフンウニ